２０２６　山の足跡２　大寒波に突っ込め

姥ヶ岳／湯殿山（2026/1/10-12）

Ｌ：Ｔ野、Ｉ崎、Ａ原、Ｙ科、Ｍ浦、Ｈ口

今季最大の寒波がやって来る！この三連休で計画していた月山方面でのスキーはまさにそのタイミングに当たってしまった。まぁ、最悪は宿と温泉と宴会を楽しむだけでもいいやという事でツアーは始まった。

前泊した福島の宿をまだ暗い 5:30 に出て山形道を突っ走る。明るくなってくると空には水色と桃色が織りなすきれいな朝焼けが広がってきた。
「こういうのは天気が崩れるって兆候だよ。まさに嵐の前の静けさって感じだな」とＩ崎さんがハンドルを握ったまま呟いた。やがて月山が見えてきた。山頂には傘雲を被っている。
西川のコンビニで弘前から来た Ei ちゃんと落ち合い、道の駅で準備を整えてから志津へ向かった。
除雪終了点には車が 40 台も停まっていた。今日の午後から天気が崩れてくるという事でこの三連休は今日がチャンスとばかりに集まっているのだ。

8:50 に歩き出す。トレースはしっかり付いている。自然博物園の横を抜け石跳川に沿って進んで行く。当初は湯殿山へ向かう予定であったが、結構な人数が入っている事や、この天気で南斜面を滑るよりも東斜面の方が雪がいいんじゃないかという事でＴ野さんが姥ヶ岳の東斜面を滑ろうと提案した。湯殿山へのトレースを離れ姥ヶ岳へ向かって歩き出した。

最初の上り斜面を上がった所からは湯殿山の斜面が見えた。集団が上がって行くのやシュプールが描かれているのが見える。それと山頂付近には雪煙が上がっていた。あそこまで上がると風が強いのだろう。

1,230m まで上ると月山スキー場のリフトが見えてきた。青空が広がり進んで行くと姥ヶ岳の斜面も見えてきてそこに深いシュプールが一本刻まれている。
「何か左に曲がる時にクセのある滑り方だね」とＡねーさんが言ったが、そう言われればシュプールはスムーズでなく細長いＳを重ねた形で続いていた。
左側に見える真っ白な湯殿山と同じような高さまで上がって来ると後方には朝日岳や赤見堂岳の山の連なりが広がっている。ひこうき雲が 2 本並行して伸びていた。こんなのんびりした天気で本当にこれから大寒波がやって来るのだろうかと思う。

真っ青な空の下の真っ白な湾曲した雪面を上がって行くと 1,450m あたりから風が吹き付け出した。いよいよ寒波の先鋒が姿を現わしてきたのか。
山頂が近づくと雪面は波打ったシュカブラに変わって歩きにくい。おまけに横風が強く煽ってくるのでジャケットのフードを被る。

13:30、山頂は地吹雪になっていた。地吹雪の先に月山の頭が見える。左方向には嬉しいことに鳥海山も確認できた。しかしあまり長居はしていられない。横風の中で滑降の準備を始める。
「シールや板、飛ばされないようにしてくださーい」とＡねーさんが注意を促した。

まず固いシュカブラの雪原を横切る。シュカブラが切れて東斜面に出ると風が遮られ気にならなくなった。
そこからは気持ちのいい滑りが待っていた。T野さんが相変わらず格好いいフォームで滑り下りて行く。途中で止まると合図を出し、それぞれの滑りをビデオで撮ってくれた。斜面には我々だけ、標高差で 350m くらいの滑りを気兼ねなく楽しむことができた。

森の中に入るといつの間にか往路のトレースを横切り少し西側の地点に居た。右へ戻らず下って行くと湯殿山からのトレースにぶち当たりそれを利用して 15:15 に除雪終了点まで戻った。ちょうどこのタイミングで志津でも雪が降り出した。

大井沢へ移動し大好きな宿Sに入る。荷物を下ろして一息入れ大井沢温泉に向かう。湯船に浸かっていると遅れて来たY科さんが立膝をついてシャワーでかけ湯をした。70 代中盤にもかかわらず腿に筋肉が走るその姿がロダン『考える人』のように見え、思わず「ロダン！」と口に出てしまった。

宿に戻るとさっちゃんの美味しいご馳走が待っていて、その後は宴へと突入する。日本酒四合瓶を持ち込む者が 4 名も居て頼もしい。さらに Ei ちゃんが極上アップルパイを持って来てくれて幸せが重なっていく。その間も雪は静かに積もっていった。さて明日はどうなるだろう。

5 時に起きて窓の外を見る。暗いながらも一面雪で覆われているのが確認できる。今も雪は降っている。ただし動けないほどではない。今日は湯殿山を頂上まで行かず 1,250m まで上ってブス沼へ向かって滑る事にした。

国道に出る道も昨日から除雪車が動いてくれていた。我々がこうして動けるのも除雪作業のおかげである。志津に着くとさすがにこんな日は人が少なく、我々の他は 10 人組のガイドツアーだけだった。

8:20 に出発。歩き出した周囲の景色は昨日とはまるで様相が異なり、吹雪のためにやや薄暗い感じさえ受ける。
我々の前を行っていたガイドツアーの連中が自然博物園の所で休みを取るとその先はノートレースになっていた。昨日は深い溝のようなトレースが付けられていたのにこの雪で跡形も無く消されてしまっていた。

分岐の所で石跳川を渡りそこで一本取った。歩き出してちょうど 1 時間だった。
一息ついてここから目の前の台地へ上がるのだが「右から行くか左から行くか」と言っている間にI崎さんがジグを切って上がり出した。
雪の降りつける森の中、ラッセルを交代しながら上がって行く。Aねーさんの次はY科さんに代わった。昨日見た腿の筋肉のせいかラッセルが心なしか力強く見える。これは羊の頭を付けた彫刻である。
「ロダン、カッコいい！」とあややが茶化した。
森の中にもかかわらず次第に冷たい横風が強くなってきた。ブス沼へ滑り込むには 1,250m まで上がりたいが 1,180m の所で断念した。

時間は 10:40、いつもならこういう時に行動食を食べたりするのだがみんな寒くて早く下りたいのか滑降への備えに忙しい。そんな所へガイドツアーの連中が上がって来るのが目に入った。尾根の東側にルートを取っていたのは風を避けるためだろうか。

Ｔ野さんが滑り出しみんな続いて行く。雪はたっぷりだがやや重であまり曲げられない。下手して板の先端を深雪に取られると抜き出すのが大変だ。ロダンが木の横で『仰向けの人』となっていた。

それでもしばらく下ると雪質が良くなってきた。そのまま下って行き石跳川にぶち当たった。しかし位置を確認してみると往路で川を渡った分岐からだいぶ上流の方へ下りて来ていた。
どうするか、上り返して往路のトレースまで戻ろうか。すると舘野さんが沢沿いに付けられたトレースを見つけた。先ほどのガイドツアーのトレースらしい。トレースに乗るとボブスレー状態でみるみる分岐の所までたどり着いた。自然博物園を過ぎ、平坦な所は手漕ぎを使いながら 11:55、車の所まで戻った。車の台数はあまり増えていない。ジモティーさんたちは今日はスキーどころではないのだろう。

ちょうど昼時なので道の駅でランチとする。雪の勢いはますます強くなってきた。予報通りと言えば予報通りだ。温泉へ行き宿に戻り 15 時前から飲み始めてしまった。我々の帰りが早かったのでさっちゃんも気を効かせたのか夕食を 16:30 からに早めてしまった。今日のご馳走はおでん鍋であった。これもお酒を進ませる。
早くから飲み始めたせいか酒量はだいぶ嵩んでいた。座椅子に傾きながら寝ていたＩ崎さんはずり落ちて何度も大きな音を立てていた。明日は雪の具合でどうするかを起きてから決めることにして布団に入った。

5 時半に起きると既にさっちゃんは外に出て車の周りの雪かきをしてくれていた。道路の雪は昨日より積もっていた。
さて今日はどうしようか。東京まで帰らねばならないし長い行動はできない。このまま帰ろうという意見もあったが多くの人は口をつぐんでいた。あわよくばどこかで遊べたらと思っている。それなら帰る途中でもあるので八ツ楯山の入口まで行ってみようという事になった。
すぐに滑れるように支度をして民宿 S を発った。さっちゃん、今回もありがとう。またお邪魔させてもらいます。

国道脇の駐車スペースに車を停め様子を窺った。雪が多く人が入った気配は無い。「深雪のラッセルだしこれじゃあ下りもラッセルじゃないか」とみんなあまり意気が上がらない。結局、入山せずに帰る事にした。道の駅で着替え直しコンビニに寄ってそこで解散となった。

山形道を走って行く。雪は止み太陽の光に照らされていた。しかし風は爆風だった。磐越自動車道では強風のため通行止めになっている区間もあった。他の場所へ行った会のメンバーも相次いで今日は活動を止めたようだ。最終日は山行が出来なかったが今季最大の寒波を相手にこれだけ遊んで来れたのだから堂々たる凱旋と言えようか。

（Ｈ口　記）